

「ふるさと教育」に関する主な意見

1. 「清流の国ぎふ」づくり推進県民会議 企画分科会における意見

- 高校における郷土教育を制度化してよいのではないか。
- 高校において地元の企業や伝統文化も含めて魅力を実感できる教育が必要と考える。
- 小さい頃から、岐阜県は「清流」できれいな水や森、街があることを知り、その中で生活することで起業や就業に繋がると思う。
- 岐阜県独自の豊かな自然に触れたり岐阜ならではの食材を食べることにより、岐阜の良さを体験するふるさと教育が良いのではないか。
- 地元との連携会議を組織し、ふるさと教育のあり方を検討すべき。
- 地元や企業のニーズを高校にどう反映するかが課題である。
- 農業高校の卒業生は、地元で就農したり、農業組合の指導員になったりもできるが、あまり広がっていない。
- ふるさと教育に文化芸術の専門家が参画することでより良いものにできる。
- 地域への愛着や誇りを醸成する文化芸術に触れる機会を関ヶ原古戦場や観光資源など他分野と連携して拡充してはどうか。
- 幼児から高校まで連携したふるさと教育が必要ではないか。
- 幼児期から高校までにふるさと教育をどのように受けてきたかでその後が変わっていく。
- 卒業生の県外流出を是とする県立高校の進路指導のあり方を議論すべき。
- 小中学校でのふるさと教育を高校でも継続。地元に加え県全域についても学習すべき。
- 教育というと学校がやるものだという認識があるが、学校の先生がやれることには限度がある。それ自体のシステムを変えていかないといけない。防災教育、障がい者教育、税教育、ふるさと教育もやろうとするのは土台無理である。学校運営協議会が入るとか、コミュニティスクール化するとか、専門人材と学校が連携をとってやるシステムを新たに構築しないとできない。

2. 「清流の国ぎふ」づくり推進県民会議 企画分科会における市町村ヒアリング

- 高校において地域の産業を学ぶような郷土教育を実施すべき。
- 小中学生に一生懸命ふるさと教育を行っても高校で途切れてしまうため、高校においてもふるさと教育を行うべき。
- ふるさと教育を高校でも実施して欲しい。
- 中学校の卒業式ではふるさとに貢献したいと言っているが、高校へ進学したら帰ってこない。